

「ベガ」 設備等の使用方法 予備知識

1、運転について

普通車より少し車体は幅広（211cm）で、高さは（320cm）ありますので、学校・ホテルなどの玄関アーケード又は歓迎アーチ・バルコニーなどにぶつかる危険性があります、また道路沿いにある立ち木・看板・ミラーなどにもぶつかる可能性がありますので、高さには特に注意してください。（過去9年間で屋根を損傷した事故は5回ほどあります。）

（運転前の始業点検について）

貸し渡し日は、当店にて始業点検してレンタル致しますが、2日目以降は毎日お客様が始業点検しなければなりません。

次の点は、当店にて点検し補充していますので、お客様は点検しなくてもOKです。

エンジンオイル補充・ウインドウウォッシャー液補充・バッテリー液補充・エンジン冷却液（クーラント）補充・エンジンベルト等の点検と交換

（レンタル開始時のキャンピングの装備と準備作業についての説明）

レンタル開始前には、当店においてすべての点検と補充を済ませてお客様にレンタル致しますのでご安心ください。（飲料水タンク満タン・トイレ流し水満タン・LPガスは日数により十分な量を搭載してレンタルいたします。）

※冬期間は、凍結防止で「水抜き」していますので、飲料水タンク・温水ボイラーは使用できません。

※冬期必要な方には、別に20Lのポリタンク（飲料水用）を用意いたします。

※冬期は、排水タンクも使用できませんので、別に設置のタンク（20L）に排水となりますので、満タンであふれる前に廃棄しなければなりません。

（1）エンジンスタートについて

この車は、ジーゼルエンジンですので、グロー（予熱）してエンジンをかけるシステムになっています。スタータースイッチ（エンジンスイッチ）をonにするとこの予熱表示灯（コイル線表示）が点灯し、完了すると同時に消灯しますので、この消灯を合図にエンジンを始動してください。

（2）ハンドルの位置調節

快適運転のために、ハンドルの位置を前後に移動できます。（停車中に調整のこと。）

（3）バック（後進）の注意

バックアイカメラ（モニター）が装備されていますが、このカメラにのみ頼らずに、事前に自分の目で後方確認をしてから、左右のサイドミラーも見ながらバック（後進）

することがより安全です。補助者の誘導でのバック（後進）はより安全です。

ワンポイントアドバイス

駐車場等に駐停車する時は、出る時の事を考えて駐停車の場所を決めるのが賢明です。（前進で入って駐停車して、前進で出られる場所が見つければ理想的な場所です。）

※バック（後進）は、出来るだけしない運転が安全運転になります。

※意外と車体が長いので、バック時に衝突するケースが有ります。出来るだけバック運転は避けた方が良いでしょう！

(4) 走行時のスピード

スピードは、出そうと思えばそれなりに出ますが、急な凸凹があると車体が大きく揺れたり、ジャンプしたりして、車内の食器等の荷物が落ちたりしますので、あくまでも、ゆっくりドライブが適しています。車間距離を充分とって走行すること、ゆっくり運転がキャンピングカーには適しています。

・ オーバーヒートについての注意点(ワンポイントアドバイス)

長い上り坂が続くと、キャンピングカーは重量が3トン以上あるためにオーバーヒートする場合があります。高原の露天風呂・摩周湖への長い上り坂等は特にエンジンが過熱してオーバーヒートになりがちです。

こんな時は、エンジン温度に注意し、温度が上昇した時はアイドリング状態(エンジンをかけたまま)で車を停車して温度が下がるのをしばらくお待ち下さい。

しばらくすると、冷却液が循環されて温度が下がります。

また、峠に到着後は、しばらくアイドリング状態でエンジン温度が下がるまでエンジンを切らないでください。

(5) オーバードライブ (ON・OFF) の操作について

通常運転では、ON で使用してください。

坂道の下りでは OFF して軽いエンジnbrakeキとして使用してください。(長い下り道ではフットブレーキを長く使用しつづけると過熱して性能が落ちることがありますので、ぜひこれを使用してください。)

※このオーバードライブは、チェンジレバーがDの位置でのみ働きます。(詳しくは、車の取り扱い説明書をご覧ください。)

(6) エキゾーストブレーキ (ハンドルの左に有るレバー) の操作について

このレバーを前に押すと「エキゾーストブレーキ」が作動します。作動中はインジケーターランプ及びストップランプが点灯します。

※このブレーキは排気管の途中をバルブで遮断し、排気ガスを止めることにより、エンジnbrakeキの効果をもたらし、降坂時や高速走行時などに補助ブレーキとして使用します。

(7) 助手席側サイドミラーの格納 (収納)

・せまい場所に駐車する時等利用してください。

(運転席左前に押しボタン有ります。)

2、駐停車時について

(1) 駐停車の時又はキャンプ地(宿泊場所)が決まりましたら、チェンジをパーキングの位置にて、「車のキーを必ず抜いておくこと。」が安全の第1です。

※キーを入れたまま放置すると、思いがけなく事故になる場合がありますので注意しましょう。

※これと併せて、サイドブレーキをかけておけば、2重のロックでより安心してキャンプできます。

(2) 車のドアの施錠について

① ベガは、助手席側も同時に施錠されませんので、助手席側と運転席をそれぞれロックしなければなりません。

② リアドアは、右へ回すと開錠、左へ回すと施錠できます。

※開錠した時にはキーを縦に真っ直ぐの状態にもどしてから抜いてください。

(※鍵穴が、この縦に真っ直ぐの位置になっていないと、内側から手動ノブで施錠することができませんので、ご注意ください。)

※このベガには、もう1個の2重の「かぎ」が付いています。

(3) トイレの使用について

トイレの汚物は、左側(助手席側)やや後方に収納されているカセットタンクに溜まります。トイレ本体の上の部分に「汚物が溜まるとランプが点灯するようになっています。」満杯表示ランプが点灯すると廃棄しなければなりません。公衆トイレ・ガソリンスタンド等でチョット早めに廃棄してください。

ワンポイントアドバイス

① トイレは、昼間はできるだけコンビニ・道の駅・ガソリンスタンドなどで済ませて、夜間にのみ車内トイレを使用するのがいいと思います。

② トイレの汚水は、たくさん溜めると、廃棄する時、運ぶのが重くなりますので、まだ軽いうちに早めが、賢明かと思います。

③ 水洗トイレ水の補給は、トイレカセットの上に給水口が有りますので、ホース等で給水できます。(お貸しする時は、満タンに給水しますので、利用者の方が給水することは無いと思います。)

(4) 水タンクの補給などについて (※冬期間は使用できません!)

ベガにはメインタンク(90L)とサブタンク(90L)の2個のタンクが有ります。満杯に給水して貸し渡しいたしますが、途中不足となったときは、各利用者で給水していただくこととなります。水の使用法・給水の仕方については当日説明いたします。(車内での、ガス使用でのお湯・水の使用法も当日説明いたします。)

(5) LP ガス使用の準備作業について

① 右側（運転席側）にLPガスボンベを収納しています。収納庫の鍵を開錠し、中の右側にLPガス（8kと5Kボンベ）が入っていますので、タンク最上部にある緑色のバルブを左に約1回廻すと、バルブが開きガスが供給されます。（バルブは全開する必要はありません。むしろ万が一の時に早く閉めれるように、1回転ぐらいで使用するの良い方法です。）

（LPガス収納ドアは開けたまま御使用ください。）

② 車内の12ボルトのメインスイッチ（エントランスの入り口左にある緑色のスイッチです。）をONします。

③ ガス漏れ警報機のスイッチをONにします。

④ 次に、ガスリモートスイッチ(ガス供給の2重の電磁スイッチ)をONします。

このスイッチの仕方は、当日説明いたします。

※ガスの元栓を開ければガスが使えると思っている方がいますが、元栓を開けただけではガスは供給されません。このガスリモートスイッチ(ガス供給の2重の電磁スイッチ)をONしないとガスが供給されません。

(6) ガスレンジの使用説明

（前段の準備作業が終わった段階からの説明です。）

① 火力調整ダイヤルを押しながら、炎マークまで左に回し、着火ボタンを押して着火させます。この時1回で着火しない場合は着火ボタンを数回押して下さい。「立ち消え防止装置が付いているため、1度着火しても消えてしまうことがありますので火力調整ダイヤルを5から10秒間押し続けます。」ダイヤルから手を離しても炎が消えないことを確認してから炎の強弱をダイヤルで調節してください。

※使いはじめや、ガスボンベを取り替えた時、長期間使用しなかったときなどは、ガスマン内に空気が入っていて、点火しにくい場合があります。このような時は、炎を近づけたまま、しばらくダイヤルを押し続けてください。

注意

- ・ガスレンジを使用する時は、近くに燃えやすいものが無いように注意下さい。
- ・走行中は、ガスの元栓を閉め、ガスは使用しないでください。
- ・ガスレンジ使用中は、レンジフードを使用し、窓を開けるなど換気してください。
- ・風や煮こぼれなどで、火が消えることがあります。使用中は、そばを離れないでください。
- ・ガスの臭いがしたら、ガスの元栓を閉じ、窓とドアを開け、十分に空気を入れ替えてください。この時レンジフードやルーフベンチレーターなど電気器具のスイッチを

絶対に操作しないでください。スイッチの火花で爆発することがあります。

- ・ガスレンジ使用中の外出や就寝は、絶対にしないでください。
- ・ガスレンジ使用中は、レンジのまわりに、物を置かないでください。

(7) 温水ボイラーの使い方 (※冬期間は使用できません！)

① 温水ボイラーに水を入れる。(ボイラー内に水が入っていることの確認です。)

- ・ウォーターポンプスイッチを「ON」にし、ギャレー混合栓もしくはシャワーを最高水温の位置に合わせ、水栓を開けて水が出てきたらボイラー内は満タンです。

(※温水ボイラーのスイッチを ON する前に、必ずこの方法で水を入れることが必要です。)

② ガスの元栓を開ける。(LPガスの使い方を参照してください。)

(すでに、ガスの元栓を開けている場合は、次へ進む)

③ 温水ボイラーのスイッチを入れる。(※冬期間は使用できません！)

(※①の水を入れることが済んで、はじめてここでヒーターのスイッチをONします。)

- ・温水ボイラーのスイッチは、クロゼット前面の左にあります。
- ・スイッチを入れると、ランプが赤く点灯した後、消灯したら着火OKです。
- ・ランプが再点灯したときは失火していますので、やり直してください。
- ・ガスボンベを入れ替えた時などは、ガス管内に空気が入っていて、自動点火しにくい場合があります。このような時には、もう一度「温水ボイラースイッチ」を入れなおしてください。(水温が70度になるまでに約20～40分かかります。)

④ 使い終わったら・・・

- ・温水ボイラーのスイッチを切る。
- ・ガスの元栓を閉じる。

注意

・スイッチを入れる前に、必ず温水ボイラー内に水が入っていることを確認することが大事です。空だきは危険です。

- ・走行中は、ガスの元栓を締め、温水ボイラーは使用しないでください。
- ・温水ボイラー点検口カバー部分に、燃焼用空気出入り口があります。熱くなりますので、触れたりしないよう注意してください。また、不完全燃焼の原因になりますので、ふさいだりせずに、通気をよくして使用してください。
- ・使用中異常を感じたときは、温水ボイラーの使用を中止し、すみやかに点検を受けてください。

(8) シャワーの使い方 (※冬期間は使用できません！)

- ・集中スイッチパネルの「ポンプ」スイッチをONします。
(緑色ランプがつかます。)

- ・お湯を使うときは、前記の「温水ボイラーの使い方」を参照してください。
- ・シャワールームキャビネット中央部（カガミ兼小物入れの下）にノブがついています。（洗面台としてしようする時は、凹部分を手前に引くと開きます。）
- ・シャワースイッチを左に回すと水が出ます。とめる時は右へ回すと止まります。水温は左右に回して調節してください。
- ・シャワーとして使う時は、必ずシャワーカーテンを引いてから使用してください。（室内側に水がもれる恐れがありますので、カーテンを使用してください。）

（9）冷蔵庫の使い方

- ・冷蔵庫は、DC 12V・AC 100V・LPガスの3通りの方法で使用できます。
- ・冷蔵庫正面の操作パネル右部分がLPガスで、左部分がDC 12VとAC 100Vの操作に使用します。

①「DC 12Vで使用する場合」（エンジン駆動中にのみ使用できます。）

- ・エンジンを始動します。
- ・冷蔵庫のDCボタンをON側へ押します。（赤のパイロットランプが点灯します。）
- ・エンジンを止めると、冷蔵庫へのDC 12V供給が自動的に止まります。

（停止中やキャンプ中には、12Vでは使用できません。この時は、AC 100V又は、LPガスを使用してください。）

- ・DC 12Vで使用中は、温度調整できません。（温度設定ダイヤルは働きません。）

②「AC 100V電源で使用する場合」

- ・AC 100V外部入力コードを接続した時に働きます。（接続の仕方は当日説明いたします。）
- ・冷蔵庫のAC100VボタンをON側へ押しすと緑色のランプが点灯します。
- ・温度調整ツマミで必要に応じた温度セットをして使用ください。

③「LPガスで使用する場合」

- ① LPガスボンベの元栓をゆるめ、ガスリモートスイッチ(ガス供給の2重の電磁スイッチ)をONにします。(LPガスの使い方を参照)

- ②温度調整ツマミを「7」に合わせます。

- ③冷蔵庫のガス点火スイッチ（☆印）（赤色）をONにします。（赤のパイロットランプが点滅を始めます。）・・・・・・（これで点火準備状態になります。）

- ④「ガス開閉ツマミ」を押しながら左へ回して「炎マーク」に合わせ、点火するまで押し続けます。（5～60秒間押し続けます。）（バーナーが点火すると、ランプの点滅が止まります。）（庫内の小窓で着火を確認してください。）

※参考までに

（静かな車内で点火の音を聴くと「チ・チ・チ・チ・チ（点火している音）・ポーッ（着火した音）」と聞こえます。聞こえないときは、冷蔵庫を開けて庫内の音を聞くと、こ

の音が分かり、着火が確認できます。)

※着火されれば赤のパイロットランプは消灯します、着火しなかった時は再度点滅に戻りますので、再度着火をしないおしてください。

- ・左側の温度調整ツマミで必要に応じた温度に調整します。
- ・使い始めのときなどは、ガス管内に空気が入っていて、点火しにくい場合があります。このようなときはしばらく「ガス開閉ツマミ」を押し続けてください。
- ・炎が何らかの理由で立ち消えした時は、自動的に点火スパークが始まり、再点火しますので、ガス使用中は、点火スイッチを ON のままにしてください。

※メインスイッチはONにしてください。

「LPガス使用を終了する時」

- ・ガス点火スイッチをOFFにします。
- ・「ガス開閉ツマミ」を右へいっぱいにもどします。
- ・ガスマリモートスイッチ(ガス供給の2重の電磁スイッチ)をOFFにします。
- ・ガスボンベの元栓を閉じます。

「通気口カバー(車体外部左後方)について」

- ・通常はカバーを取り付けたままで使用しますが、冷蔵庫の冷えが悪いと感じたときは、取り外すと効果的です。
- ・冷蔵庫を使用しないときや、雨・雪・洗車等のとき、また走行中は、カバーをつけてください。

この外 冷蔵庫の使い方について

「ドアストッパーについて」

- ・走行中ドアが開かないように、ドアの上部にドアストッパーが付いています。
- ・ストッパーをかけるときは、つまみを下へ押します。
- ・外す時は、緑の解除ボタンを押します。

注意

- ・冷蔵庫の能力を発揮させるために、次のことを守ってください。
- ・車を水平にする。・・・冷蔵庫は、5度以上傾いていると冷えが悪くなるか全く冷えません。
- ・車の左側面を日影にする・・・冷蔵庫背面に、日光をあてないようにすると冷えやすくなります。
- ・予冷しておく。・・・一晩程度、庫内を予冷しておくこと、冷えやすくなります。また、中に入れる物をあらかじめ冷やしてから入れることをおすすめします。
- ・強い雨の時には、冷蔵庫背面の通気口から雨が吹き込むことがありますので、車

の向きをくふうするなどしてください。

- ・冷蔵庫背面の通気口は、冷蔵庫を冷やすための外気口とガスで作動している時の、燃焼用の酸素を取り込む所でもあります。ふさいだり、中に物を入れたりしないでください。(一酸化炭素中毒や、火災の原因となります。)
- ・冷蔵庫背面の通気口カバーを取り外した際は、確実に取り付けてください。
- ・LPガスでの使用中は、ときどき「ガス点火スイッチ」のパイロットランプが点滅していないか確認して使用してください。(消灯で正常に点火しています。)
- ・冷蔵庫を使い終わったら各スイッチを切り、ガスの元栓を確実に閉じて下さい。
- ・走行時には、ガスの元栓を確実に閉めますので、LPガスでの使用は出来ません。
- ・LPガス使用中は、時々換気しながら御使用ください。

(10) LPガス燃焼ヒーター(FFヒーター)の使い方

- ・このヒーターはLPガスを使用する温風暖房機です。停車中・走行中にかかわらず使用できます。
- ・車室内の空気を全く汚すことなく安全で快適に使用することができます。
- ・温度調節ダイヤルにより室内をいつもお好みの温度に保つことができます。

① 運転操作の方法

先に説明の、LPガスの準備をします。

② 点火の操作

- ・温度調節ダイヤルを10に合わせます。
- ・ダイヤルを押し下げて種火を点火させます。
- ・スパーク音が小さくなるまで数秒間押し続け、離します。これで着火します。(点火するとスパーク音がしなくなるので前面の小窓にて着火を確認してください。)
- ・温度調節ダイヤルで温度を調節します。
- ・ファンスイッチをONにしてください。(ON:オート)で使用下さい。
- ・風量はダイヤルで調整してください。

③ 停止

温度調節ダイヤルを「0」に戻してください。(これで消火になります。)

注意 ①ヒーター運転中及び掃気中は、メインスイッチ(バッテリースイッチ)をONしたままで使用してください。

11. AC100V電源について

- ・AC100V電源が取れるときは、この方法をおすすめします。
 - ① サブバッテリーが自動的に充電されます。
 - ② 冷蔵庫が100Vにて冷却できます。

③ 室内ACコンセントで電気が使用できます。

※この100V外部電源の接続コードの取り扱い方法は、当日説明いたします。

●ブレーカーについて

・この100V外部電源を接続した時は、ブレーカーを「入」にしてください。これで100Vが車内に入るようになります。(使用電力が10Aを超えるとブレーカーが「切」になります。この時は使用電力を10A以下になるようにしてから、再度「入」にしてください。

●室内コンセントについて

室内コンセントはAC100V・DC12Vでそれぞれギャレーとテレビ台の上方にあります。

AC100Vは使用する機器の合計電力が1000Wまで・DC12Vは120Wまでが限界ですので注意しましょう。

12. 集中スイッチパネル

集中スイッチパネルによって、サブバッテリーのコンディションや給排水タンク内の水量をチェックできます。さらに給水ポンプスイッチ、ノンヒューズブレーカーが組み込まれています。

13. 照明器具の使い方は、当日説明します。

14. シャワールームベンチレーター(換気システム)の使い方についても省略します。

15. ルーフベンチレーター(室内換気システム)についても省略します。

16. テレビ・テレビアンテナの使い方についても省略します。

17. 給水の仕方についても省略します。(貸し渡しの際に説明いたします。)

18. 排水の仕方についても省略します。(貸し渡しの際に説明いたします。)

19. トイレの使い方・給水の仕方・汚物タンク排出の仕方は、引渡し時に説明します。

20. メインサロンのベットの作り方についても引き渡し時に説明します。

21. 収納庫の使い方・ステップボードの使い方にも上に同様です。

22. サイドオーニングの使い方・リアキャリアの使い方についても上に同じです。

23. スペアタイヤ・ジャッキの取り出し方については、当日説明します。

24. インバーター(DC12→AC100)を装備していますので、100V電源が使用できます。(携帯電話の充電にお使いください。)当日説明します。

25. 最後に「キャンピングカーを運転する時の注意点」を記しておきます。

①走行前の確認を念入りに

・キャンピングカーは装備が多いため、通常の始業点検に加え、次の事項も確認してください。

※外部後ろの100ボルト差込プラグを抜いてコードを収納したか。

※ガスボンベの元栓をしめたか。

※各収納庫を収納しロックしたか。

※荷物は確実に固定したか。(バイクキャリア・スキーキャリア等)

※サイドオーニングは、収納したか。

※ハネ上げ式ウィンドウは、閉めたか。

※ドアはロックしたか。

②キャンピングカーは、一般乗用車に比べて重心が高いため、走行中のローリング（横揺れ）や、ピッチング（縦揺れ）が大きくなります。また、車体表面積が大きく、横風の影響を受けやすいので、高速走行時などは特に注意し、安全運転を心がけてください。

① ボディー後部の接触に注意

・この車は、一般乗用車とくらべて、リヤオーバーハング（後車輪から最後部までの寸法）が長くなっています。このため、**段差のある場所**や、**急角度ハンドルでの運転時**には充分注意してください。

以上、初めてキャンピングカーを利用する方への予備知識として、取り扱い説明書の抜粋で作成してみました。参考になれば幸いです、また、説明不足な点、疑問点などありましたら、問い合わせくださいませ、ご利用をお待ちしております。

2007. 7. 12 作成

2014. 1. 10 一部説明追加

レンタルキャンピングカー・オアシスポイント：代表 武田 康行